

令和6年度 第4回社会教育委員会議事録

【日時】 令和7年（2025年）3月25日（火）15:00～17:00

【場所】 生涯学習センター5階 第1学習室

【出席委員】

議長	久保内 加菜
委員	臼井 護
委員	河井 眞二
委員	志村 直愛
委員	林 但
委員	山岸 雅人

副議長	櫻井 聡
委員	浦野 千鶴
委員	小林 純子
委員	常田 風花
委員	蛭田 道春
委員	吉田 晴美

【欠席委員】

委員	加藤 直保子
委員	八矢 信宏

委員	藤沼 直美
----	-------

【事務局出席者】

教育総務部長	古谷 久乃
同課主査	島内 さおり
同課アシスタント	大石 紀子
中央図書館係長	深水 賢一

生涯学習課長	杉山 賢一
同課主任	遠藤 雅弘
中央図書館長	柿原 美奈

1 開会

事務局が会議の開催を宣言し、議長が会議の進行を開始した。

定足数について

委員15名のうち12名が出席し、出席者がその半数を超えるため、社会教育委員会議規則第4条第1項の規定に基づき、事務局が会議成立を報告した。

その他

傍聴人の確認（傍聴者0名）、配布資料の確認を行った。

2 報告

(1) 令和7年度 第56回関東甲信越静社会教育研究大会第2回実行委員会について

事務局が報告を行った。

<質疑応答>

委員 補足だが、応援4名の主な作業としては会場の設営と撤収。横須賀市の担当会場は、ほぼ関内ホール。地域学校分科会のところだけが横浜駅西口の県民センターでの作業になる。詳しくはまた連絡があると思うので、ご協力のほどよろしくお願いします。

議長 ありがとうございます。では次の報告に移る。

(2) よこすか電子図書館の導入実績について

中央図書館長 本会議の第1回・第2回で触れたが、中央図書館の資料事情を反映し、国の交付金を活用して今年度「よこすか電子図書館」を導入。令和6年8月からスタートした。初年度をほぼ終了したところで実績について報告するとともに、私共が把握している課題について意見・助言等をいただきたい。

中央図書館係長が報告を行った。

<質疑応答>

議長 資料1の3、利用状況について。学校連携で利用している小・中学校の児童・生徒数は利用者数・貸出回数・閲覧回数の中に入っているのか。

中央図書館係長 入っている。

委員 利用状況の貸出回数と閲覧回数の違いについて教えてほしい。

中央図書館係長 貸出回数は文字通り貸し出しの回数。閲覧回数というのは、実際にその電子書籍を見た回数で、例えば貸し出し後に本を開いたら閲覧1回とカウント。借りた本に関して3回読むことがあったとしたら閲覧回数3回としてカウントされる。

議長 貸出し1回に対して閲覧3回というカウントになるということか。

中央図書館係長 はい。同時に何人でも読むことが可能で、児童生徒によく利用されている「読み放題パック」は、利用時に貸出回数のカウントがされないため、閲覧回数もカウントすることと

している。

委員 では、読み放題パック以外の1つの電子書籍を同時に2人以上が見ることは出来ないということか。

中央図書館係長 はい。一般的な電子書籍は一人しか見ることが出来ず、読み放題パックに入っているものは複数人で見る事が出来る。

委員 一般の電子書籍に関しては、貸出中は見ることが出来ないということか。

中央図書館係長 はい。ただ、「試し読み」ボタンがある電子書籍は試し読みをすることが出来る。

委員 電子書籍には一般のものと読み放題のものの2種類あって、本棚が別になっているような形で、一般のものの本棚からは、貸し出しという形を取らないと読むことが出来ず、一方、読み放題パックの本棚にある電子書籍は、何人でも同時に読むことが出来るというイメージか。

中央図書館係長 はい。現状、残念ながら事業者から購入する電子書籍の多くが読み放題ではないが、電子書籍なので何人でも同時に同じ本を読むことが出来るのが一番いいと考えている。

委員 素人考えだとその方が数字が伸びそうな気がする。でもまずは電子図書館が始まった。何年か越しでずっと言い続けてきたことなのでよかった。ありがとうございました。

中央図書館係長 先ほどの学校連携で利用している貸出回数・閲覧回数についてだが、例えば貸出回数約15,000回のうち約7,000回が、閲覧回数約61,000回のうち約33,000回と約半数が学校利用となっている。

議長 児童・生徒数が入っている割には少ないと思ったのだが、教職員の利用という理解でよろしいか。

中央図書館係長 10月1日から使えるようになり、教職員のみという限定はしていなかった。学校によっては、まずは先生方で使ってみて確認をしたいというところもあり、まだ件数が少ない。自習の時間に読書をしたり、調べ学習で積極的に活用したりしている学校もあり様々な状況。

議長 他に質問は。

副議長 利用しているが、人気のある本、例えば「るるぶ 横須賀・三浦」は27人待ち。1人15

日利用で来年か再来年には読めるかどうか。人気のある本を増やすことは考えられるのか。

中央図書館係長 電子書籍は紙の本と比べて値段が高く、色々なジャンルの本を揃えたいので、今のところ複本は考えていない。

予約状況を見ると、シマエナガの本は 100 件位予約が入っている。気楽に読める本は、電子書籍としてとても人気があると思っている。ご意見をいただきながら考えていきたい。

副 議 長 使い勝手が非常によい。パソコンで開いている途中でスマホに切り替えても、読んでいたページから始まる。だが利用者数が少ない。目標値や計画などはあるか。

中央図書館長 利用者数の目標値は設定していない。紙の本の蔵書数と登録者数等の比較をみてみたがもう一步。知られていないことがまず大きい。

年度末に新着図書情報を市の公式 LINE で週 1 回ペースで流したところ反応があったので、新着情報を定期的に流していくなど模索していきたい。

副 議 長 ありがとうございます。

委 員 資料 1 の 3、利用状況について再度確認したい。勘違いかもしれないが、利用者数 10,678 回に対して学校関係は約 7,000 回、同様に閲覧回数は 61,413 回に対して約 33,000 回か。

中央図書館係長 学校関係の実利用者数のデータは今手元にはないのだが、先ほど申し上げたのは貸出回数と閲覧回数で、貸出回数 15,695 回に対して学校関係は 6,723 回、同様に閲覧回数は 61,413 回のうちの 33,655 回になる。

委 員 横須賀市の小学校では半分の 23 校、中学校は 2 割程の 4 校しか利用していない中でこの数字は凄い。PR や情報の提供によって飛躍的に伸びるのではないかと単純に思った。環境教育の事で去年 11 月に総合学習の一環で小学校に行った時に、鋭い質問を次々された。今の話を聞いて恐らく電子図書館を利用している学校だなと思った。

議 長 他はよろしいか。それでは、ここで中央図書館職員は退席する。

次第 3 「家庭教育支援について」

まず、(1)の「市ホームページ掲載の関連情報」の資料についての説明を事務局からお願いする。

事務局より資料 2 の説明を行った。

議 長 ありがとうございます。資料 2 でたくさんの情報を整理していただいた。只今の説明等について何か質問、意見等はいかがか。よろしいか。

資料２は多岐にわたる情報が整理されている。委員の皆様から事例票の提出もいただいたので、１人５分程度で発言をお願いできるか。

事例①

副 議 長 事例票の内容はイベントの紹介、PRにもなるが、今年度の横須賀市ＰＴＡ協議会の事業の目指すところは、家庭教育に絞っており、その事例を２つ紹介している。

１つは「キッズジョブよこすか」。スマホの普及や孤食が進み、家庭内で会話が少なくなり、家庭教育の場が失われている。横須賀市の小中学生が毎年６００人位減少している状況。子どもたちが学校を卒業して、横須賀市ではないところに就職し、そのまま横須賀以外の場所に転居してしまっているという状況が見て取れる。そこで、子どもたちが職業体験をするテーマパーク キッザニアのような横須賀版を市内の企業の協力で行いたいと思っている。事例として横須賀市と同じ中核市の愛媛県松山市のＰＴＡ協議会で開いている「キッズジョブ松山」の視察をした。子どもたちが横須賀市の大人の背中を見ながら様々なことを学び、横須賀市で仕事を見つけて家庭を作って循環していく。そのような形で失われつつある家庭教育の一助としてキッズジョブ横須賀を開催する。

もう一つが家庭教育講演会や講習会等について。今、家庭内で子どもたちに対する家庭教育をする時間が失われている。そこにはスマホがあり、会話が失われている。トクリュウ*や闇バイトなどやSNSトラブル等低年齢化している中で、本来はSNSリテラシーも家庭教育で行われるものだが、子どもの方が詳しく放棄してしまう親が非常に多い。横須賀市ＰＴＡ協議会として、協議会のメンバーが神奈川県警サイバー犯罪課でサイバーポリスサポーター講習を受け、ケータイネット安全委員として、子どもや保護者向けに「出前スマホ講習会」を行っている。

事例票には載せていなかったが、先ほど話のあった家庭教育学級については、子育てをする親同士が交流を持って学び合い、学んだことを家に持ち帰り子ども達にも伝えていくように取り組んでいる。各単位ＰＴＡからの申請を審査した結果、家庭教育に該当するものに補助金を付けている。内容としてはヨガ、フラダンス、フラワーアレンジメント、アロマ、生け花、簡単な体操、料理、書道など。楽しく子育てをしていく家庭教育の中でやっていければと思っている。

(*匿名・流動型犯罪グループ)

議 長 ありがとうございます。ＰＴＡ協議会キッズジョブをご紹介いただいた。質問がなければ次に委員よろしいか。

事例②

委 員 家庭教育につながるかわからないが、私の活動内容を紹介する。参加する親同士のつながりを目的として、年に５回母親クラブ連絡会の親子交流イベントを開催している。その際、ジュニアリーダーズにイベントへの協力を依頼している。イベント参加者にリーダーシップを取って元気に活躍しているジュニアリーダーズの姿を見てもらい、その活動を知

ってもらえれば、自分の子どもにもリーダーシップを取って活動してもらいたいと思うかもしれない。

母親クラブ連絡会に所属しているヨコスカママナビというのが私の活動だが、8年位前から月に4回程度、家電のノジマと無印良品の協力の下、子供服のお譲り会として物々交換会をしており、参加する親同士の交流もある。

またコースカの無印良品協力の下、店内に専用ボックスを常設して食品を集め、ひとり親家庭に食品を渡すフードドライブをしている。ひとり親家庭同士のつながりや困窮している家庭に協力することが出来た。

また親子で気軽に参加できる環境活動がないかと探し、花王が製品の使用済みつめかえパックを回収してリサイクルしていくリサイクリエーションという活動をみつけ、2019年から開始した。今、ノジマモールと市民活動サポートセンターに回収ボックスを置いている。年2回イベントを開催し、子どもに環境について知ってもらう活動をしている。

その他、企業に材料費を負担してもらい親子が気軽に参加できる無料の手作り体験会を2016年から毎月2回程度開催している。

中には、無料で体験できるのが良いと、馬堀海岸から平成町まで歩いて体験しに来てくれる小学生のリピーターもいる。

こうした経験から、子育てに関して協力的な企業が多いので、企業にも協力してもらいながら横須賀の家庭教育を充実させていくのはどうかと思った。

それから個人的な話を3点。

- ① つながりが欲しくて町内会に入会したが、地元民のつながりが強く横のつながりはえられないまま20年が経過した。町内会や自治会ではない、地域の方がつながれる、気軽に集まれる場所などがあると良いと感じている。
- ② ジュニアリーダーズに所属する学生と話す機会があり、進学や就職に関する有益な情報を得ることが出来たので、来年度ジュニアリーダーズに子どもも参加を予定している。
- ③ 去年、イベント「横須賀トモダチジャズ」の手伝いに初めて参加し、学生と交流する機会があり、学生向けの地域のイベント情報などが得られた。来年度からは子どもと一緒に参加したいと思った。

議 長 ありがとうございます。家庭教育に関りがあるかどうかということだったが、すべて関りがある話だったと思う。母親クラブ連絡会、ジュニアリーダーズについては委員。それから、ヨコスカママナビ。フードドライブの活動とひとり親家庭とのつながり、花王のリサイクリエーション、ノジマとのつながり、横須賀トモダチジャズで学生とのつながりなど。町内会とのつながりがなかなか難しいところがあるという事で地域の繋がりという所で少し考えがあるという事など、たくさんの貴重な事例をご紹介いただいた。次に委員よろしいか。

事例③

委員 私の活動の一つは詩吟で、全国で三万人以上いる公益社団法人日本詩吟学院の認可団体である。神奈川誠吟会の6団体ある支部のひとつに所属している。今年5月に創立65周年記念大会を行う。活動は毎月3～4回、田浦・追浜・汐入の各コミュニティセンターや正明会・緑風会館・南町協力会館等の各町内会館を利用し、2～3時間詩吟の勉強会をする。足の悪い高齢者もいるので近場の町内会館も使っている。また仕事をしている人もいるので、18時からなど夜の時間帯にも勉強会がある。

田浦コミュニティセンターの文化祭、追浜コミュニティセンター市民サロン文化祭にも毎年参加している。

現在150名ほど会員がいる神奈川誠吟会では、正月の初吟会・暮れの納吟会・毎月一度指導者研修会。年1度の全体の研修会などを行い、こまめに活動している。

公益社団法人日本詩吟学院の全国大会も毎年ある。去年は札幌で大会があり30人位で行った。学院主催の全国大会・神奈川は静岡と一緒に地区大会・地区講座などもある。生涯学習としての詩吟も大事に思っている。年齢不問で小中学生、高校生、大学生、社会人、高齢者と幅広い構成で、最高齢は現在105歳。声を出すので健康にいい。困っているのは30～50代の方が時間的な余裕がないようでその年代の会員が増えないこと。

去年11月上旬に4日間あった田浦コミュニティセンターでの文化祭では、人数を増やすために「舞踊と詩吟」のコラボをしたり、キッチンカーを呼んだりして、滞在時間を延ばす工夫した。田浦コミュニティセンターの利用グループ連絡協議会の会長をやっているのだが、サークルの登録団体が45団体なのを50団体ぐらいに増やしたいところ。詩吟の体験会もしている。

また、田浦和風研究会で和紙と竹と綿や麻の糸を使い、飛んでいってしまっても土にかえる素材だけを使って凧を作っている。毎月の活動は、田浦コミュニティセンターで凧作りを3回と、三浦海岸で7月と8月以外は1回凧揚げをしている。背筋が伸びて気持ちがいい。田浦コミュニティセンターの文化祭で、和風の作品の展示コーナーの一角で「ミニ体験会」を行ったところ、順番待ちをするほど大盛況であった。

2年前に西コミュニティセンターの文化祭で折り紙のコーナーを見かけ、親子が夢中になって作っている様子を見て、田浦の文化祭で体験コーナーを取り入れてみようと思った。

田浦梅林公園の田浦梅林まつりでは毎年「親子凧揚げ」を開催している。2ヶ月前の12月に和紙を小学校へ配布し、子どもたちが自分で絵を描いておいたものを、まつり当日の午前中に社会館で組み立て指導をして、午後に公園で凧揚げを保護者の付き添いとする。盛況で長いことやっている。前回のまつりの参加者は子どもが25人位、親御さん含めると50人位。例年観光で来る人も20～30人いるので、その人たちも体験できるようにしている。

各サークルで会員が減少し、後継者育成で苦労しており、会員増強については会員一人ひとりが声かけをして、まず見に来てもらい関心を持っていただくことから始めないと、このままいったら根腐れしてしまうくらい深刻。少子高齢化で拍車がかかっている現状だ。

議長 ありがとうございます。詩吟と和風、体験会や田浦コミュニティセンターでの活動をご紹介いただいた。かなり頻繁に詩吟の活動もされ、和風も人気があり、イベントでも子どもたちがたくさん集まっていることをご紹介いただいた。後継者育成ということも前回も事例を紹介していただいたが活動が広がっていく様子が印象強かった。

次に委員をお願いします。

事例④

委員 私は主に横須賀市のスポーツ推進に関わっていて、自分の学区だけでなく色々な学校へ行き、聞き出したことを3つ話したい。

まず、自分の武山地域では、小学生が急激に減少している。次の担い手である子どもたちにどんな行事を行ってほしいかアンケートを取ったところ、夏は水泳大会、冬はドッジボール大会をやってほしいということだった。ドッジボール大会は連合町内会を中心に、審判や進行は体育振興会、チームのまとめ役は保護者や中学生に協力してもらい、地域全体で取り組んだ。

BMSという中学生のボランティア協力者が40人程いるのだが、そのうちの約半数が参加。令和5年度は子どもが60～70人位、保護者などを含めると200人位だった。令和6年度は当日の飛び入り参加もあり児童は150名近く、保護者・祖父母・兄弟などで400名近くが集まった。特に、エキシビジョンの児童対大人では、小泉進次郎議員も参加され大いに盛り上がった。昼食は町内会が作った焼きそば。みんなで話をしながらとり、コミュニケーションもはかった。小学生が作った「武においでよ」という地域の歴史・文化・自然などが歌詞に入っている歌を最後にみんなで合唱した。郷土愛を深めた。

2点目は、グラウンドゴルフ大会を通して地域との交流をしている桜小学校の事例。昨年12月に用具を2ヶ月間貸してほしいと問い合わせがあり、貸し出して1月下旬の様子を見にいった。

桜小の総合学習の一環「地域発見」で、校外を歩いていたら、大人の人が何か面白そうなことをやっているが何だろうとなり、子どもたちが調べたらグラウンドゴルフという種目だった。その後、普段、地域の公園で行われている朝のラジオ体操に参加している7～8名の小学生を通じて、地域のグラウンドゴルフを愛する会の方に声を掛け、学校と連携しながらグラウンドゴルフを1時間ぐらい行った後、よこすかカルタやトランプ遊び等をした。その際、児童が昨年の10月位に収穫したお米から作った美味しい玄米茶を入れてくれて、会話がはずんだ。

3点目は、委員のお話にもあった武山地域の健民運動会。以前は小学校の先生7～8人に協力をお願いしていたが、働き方改革の一環で協力は出来ないという事で、町内会・体育振興会あるいは関連する団体に声を掛けながら運動会を行っていた。平成10年、20年の頃は多い時には1,500名、平成の終わりの頃は1,000名位が健民運動会に参加していたが、コロナ禍を経て、今は530名前後で頭打ち。そういった運動会に、先ほどの委員のお話しのとおり中学生のボランティアBMSや学校体育施設開放利用団体の方など色々な方達と連携をとりながらすすめていた。地域の課題や困りごとなどを話し合った。昼休み

の時間を使って「武においでよ」をみんなで合唱していた。

議 長 委員ありがとうございました。ドッジボール大会が盛り上がった、中学生のBMSがあるということだった。ところでグラウンドゴルフというのはどんなスポーツか。

委 員 専用の木製クラブでホールポストにゴルフと同じようにボールを何打で入れられるかを競うスポーツ。横須賀市スポーツ推進委員協議会では今一番注力しているスポーツで協会もでき市内に150人位の会員がいる。また、協議会の大会には協会に入っていない方も含め200名位の方に参加いただいている。

議 長 勉強になった。横須賀カルタ*とは何か。

委 員 私も初めてだったが、ご当地カルタで横須賀の歴史や観光スポットがかかれていて、なるほどと思った。

上町町内会の方が、地域を歩いていると休むところがないということで、町内会館の一部を小学生の意見を取り入れて改装し喫茶コーナーを作った。学校と町内会と地域の方が非常にいい関係で、いい雰囲気でこういう所に住んでみたいと思った。今日、連合町内会・自治会会議があるので他にもそういう事例がないか聞いてみようと思っているところ。

(*横須賀市観光協会のホームページで、お土産の一つとして紹介されているご当地カルタ。横須賀の歴史や観光スポットを46句に織り交ぜている。)

議 長 ありがとうございます。グラウンドゴルフは総合的な学習の一環として「地域発見」から始まっている。休憩所を作る活動にもつながった。

委 員 スポーツ推進委員協議会のホームページにお知らせというのがある。調べればいくらでも事例が出てくる。

議 長 ありがとうございます。ホームページでも紹介されているということで、新たな事例があったら全体会でご報告いただければ。それから健民運動会、規模が小さくなっているというものの530人くらい参加している。中学生のBMSとも連携をとった活動を行っているということで、今回は中学生を対象とすることが難しい、保護者同士も中学生になると横のつながりづくりが難しいという話があったが、ヒントになる事例をいただいた。

事例⑤

委 員 ボーイスカウトと市民大学の講座について紹介する。

まずは、ボーイスカウト。120～130年前にイギリスで始まった青少年健全育成のための団体で、日本に大正11年に伝わってから100年以上経っている。翌大正12年には関東大震災があり、すでに復興支援にあたっているという実績のある団体。

世界 160 カ国程で 5,000 万人以上が加盟している団体。全世界共通の「基本原則」があり、「スカウト運動は青少年の健全育成を目的とした社会教育運動である」と第 1 条で宣言されている。家庭教育を主たる目的とした団体ではないが、間接的に保護者へのサポートや家庭の支援が行われているので、その実感も含めて報告する。

ボーイスカウトは、年代ごとに部門が 5 つに分かれていて、それぞれに学年で 2 つから 4 つ位で分かれており、年代の発達段階に合ったプログラムを提供するもの。一言で言えば、縦横に子どもたちの連なりがある。学校は同い年の子どもたちだけの活動になりがちだが、学年を跨いだ小集団の中で子どもたちが切磋琢磨する。

もう一つは野外活動。例えるとファミリーキャンプ以上、リアルサバイバル未満のアウトドア体験の中で、子どもたちに様々な体験をしてもらうのが目的。

そこで子どもたちが身につけられるのが、社会性、協調性、自立心、責任感、人間性や国際感覚の育成といった活動が展開されている。

保護者へのサポートは、プログラムを進めるにあたり活動の時間帯だけではなく、家でも取り組むようにするものもあり、保護者と指導者が手を携えて青少年の成長を支える体制をとっているということ。もう一つはひとり親家庭などの経済的な困難を抱える家庭への支援体制を整えている。規模は小さいが、書き損じハガキや未使用切手を集め、それを原資に共に進もう（トモス）基金という奨学金制度がある。副次的効果として、低学年の時は保護者が子どもを送り迎えするので、その時に同年代の子どもを育てる保護者同士の繋がりが出来、子育ての悩みの共有や先輩お母さんのアドバイスなどが得られることもある。

なぜボーイスカウトに入れたのか問うと、家族以外の大人や兄弟姉妹以外の年代の子どもたちの中でもまれる経験をさせてみたいという事で入団するケースがある。

先ほど国際交流の話をしたが、4 年に一回ローテーションで全国大会の日本ジャンボリーと世界ジャンボリーがある。来年、広島で日本ジャンボリーが、再来年にはポーランドで世界ジャンボリーが行われる予定。ウクライナの隣なので心配ではあるが。そこでは国を超えて仲間ができる。あとは UNHCR というユニクロとのコラボレーションで古着の回収をして難民支援に充てるというプログラムがある。

次に事例報告として市民大学市民協同企画講座について話したい。

「他孫（たまご）育て」という言葉を何度か紹介しているが、市の福祉総務課の方と話した時に、このキーワードを地域の方からよく聞くようになったと聞いた。この言葉は昨年度開校したシニア世代が子育て世代を支援することで、地域社会への参加を促すことをテーマにした講座名だったが、子育て世代を支援するためにシニア世代が出来る事として、話を聞くだけでなく地域に持ち帰り、そこで根を張り始めているという非常に好循環になっていることを報告させていただく。

議長 ありがとうございます。委員からはボーイスカウトの紹介をしていただいた。様々な企業と連携した難民支援を行っていることや、家族以外の繋がりについての視点をいただいた。市民大学市民協同企画講座の「他孫育て」についてお話しいただいた。次に委員。

事例としてジュニアカレッジの紹介をお願いします。

事例⑥

委員 募集が終わっているのですが、参考にチラシを持参した。資料2の社会教育、生涯学習にある生涯学習センターが担当しているところ。紹介するのは「よこすかジュニアカレッジ」という春休みに向けた企画で、追浜にある日産追浜工場の内部を、子どもたちが保護者と一緒に見学するもの。

午前と午後それぞれ、子どもひとりに保護者1人の各15組の枠で募集したところ、午前の募集15組に対して応募が61組。午後は募集15組に対して、応募36組。結果抽選に外れてしまった方もいる。来週、子どもと保護者合わせて60名の方をお連れして、日産のラインを実際に見て、モノづくりを体感していただく。

当日手伝いで参加する予定なので、子どもたちの様子や保護者の方のお話を聞いて報告したい。今後の課題は、枠があり参加者を増やす事が出来ないで、夏休みなどに今後考えられたらいいと個人的には思っている。

議長 ありがとうございます。選に漏れてしまった人もいるようだが、後日、4月3日のご報告を会議でいただければ。夏休みに選に漏れてしまった方のフォローも。人気のある企画。

委員 地元の日産自動車工場が見られるよい機会なので、ご紹介した。

議長 日産自動車の電気自動車など最新の技術が地元で見られるジュニアカレッジとしての企画は興味深く、応募が多く集まるのも分かると思った。ありがとうございます。委員よろしいか。

事例⑦

委員 私は15年里親をしている。企業が毎月11日にイエローレシート*の活動をしていて、店頭で寄付を頂く時にそういう話をすると必ず「犬ですか、猫ですか。」と聞かれてしまう。

事例に当てはまるかわからないが、数日から数か月、次の行き先が決まるまでの間、0歳から14歳までの25名ほどの子どもたちを預かった経験から話す。預かるときに調査票をいただくが、調査票には父親、男性の存在がない。女性の方はイオンのトイレ等に行くと妊娠SOSというカードが置いてあると思うが、女性のトイレにだけ。でも子供が出来ることは女性だけの問題ではないので、その辺りを強化し、男性にも責任を持って欲しいと思っている。豊かな家庭ではないお母さん、または語弊があるかもしれないが精神的に少し支障をきたしてしまっているような女性でも子どもが出来、支えてくれる男性がいない。

そういった状況を打開するために児童相談所の方に、学校でそういう話をする機会を頂けないか話をしたが、教育委員会に話を持っていくと寝た子を起こすな、そういう話は早いと言われてしまうと。鉄は熱いうちに打ちたいといったところだが、なかなか子どもたちに話す事が出来ない。寝た子を起こすなというのが、子どもたちが起きてそれ以上のこと

を見聞きしているにもかかわらず、学校が動かないのは良くないのではないかとよく話す。

無責任な行為の先に、とても重い責任があるという事をとにかく知って欲しいと活動しようとしているが、実際、どこから手を付けていいのかわからない。また産婦人科医でも避妊に協力的な先生は少ない。そういったことが相まって里親会としても頭打ちの状態で、時々小さな会場の講演会で話すくらいなので、こういう会で皆さんにお知恵を拝借できたらと思っている。

(*イオングループが毎月11日のイオン・デーに実施している取り組み。商品購入後にレジで受け取ったレシートを応援したいボランティア団体名が書かれたボックスに投函することで、レシート合計金額の1%相当の品物を各団体に寄贈する。)

議 長 里親の話、父親不在の問題についてご指摘をいただいた。社会教育活動についても非常に敏感に考えないといけない部分。経済的に苦しかったり厳しい環境におかれた子どもや家庭については体験の格差であったり、前回の幼児教育の分野で話していただいた非認知的能力についても、元々家庭の基盤が欠けていた場合、そこがなくなってしまう。非常に重い問題。

私が聞いたところでは、アメリカの博物館では、10代で妊娠したり出産したりした若い母親向けの博物館体験やイベントをしたり講座を開いたりして、定期的に支えていく社会教育的な支援、文化的な視点から行う切り口があるが、もしかしたら、ここは抜け落ちている部分ではないかと思った。社会教育の支援による家庭教育の支援、そうしたジャンルでの役割として落とすことなく支えていく必要があると思う。

副 議 長 以前PTAで、中学校の卒業記念講演として性教育に関する講演を産婦人科の方や助産師をお呼びしてやっていたが、コロナ禍以降パタリと減ってしまった。市P協がこういった講演会に市から預かった補助金を出していたが、補助金対象になる家庭教育の講演会の対象に当てはまらなくなってしまう、補助金を出していない。そういったこともあり、卒業記念講演会の回数が減ってしまっている。市P協としては、子どもたちの性教育についてももう少し考えたい。

議 長 ありがとうございます。では、委員お願いします。

事例⑧

委 員 横須賀市子ども会指導者協議会（以下、子協）の代表をしている。子育て支援ということで、大きな行事は2つ。1つはソレイユの丘での1泊2日の夏休みキャンプ。これは親子の参加に限らず、町内会単位で、各町内会から代表の引率の方、主に女性数名と一緒に参加してもらう。夏休みキャンプは、初めて会う子どもたちが、野外炊事やキャンプファイヤーをしたり、仲良く一緒に寝たりする経験を通して、社会性を学ぶことを目的としている。子協の運営側は60～70代。小学校の低学年や中学年の子どもたちと一緒に踊ったり歌ったりは厳しいので、ジュニアリーダーズなくしては活動ができず、ジュニアリーダ

ーズの活躍や協力が一番大事なところ。大人というよりは、お兄さん、お姉さんというところでの教育も学べるのではないかと思います。

あともう一つはクリスマス会。ジュニアリーダーズと変装したり、歌ったり踊ったり楽しい会を目標としている。子育て支援という事で、子どもの社会性、自立性を育てることを主眼に行事を行い、楽しい会を目標にしている。提出した事例票には、子協に関することはあまり出ていない。私は子協・体育振興会・自治会のボランティアをしているが、その中で自治会の任務が広がっている。町内会活動では、プール遊び・夏祭り・餅つき大会など、地域の方とより密接関わり、自治会町内会を通しての家庭教育という事で事例を述べさせてもらった。

家庭教育ということでは、資料に行政が管轄して行う研修会や相談会、各種イベントを利用して、保護者・子どもたちを支援していくことを考えるが、各地域の自治会・町内会やボランティア活動を通して、家庭教育の支援をすることも必要と考えている。

それから町内会活動でボランティア活動や自治会活動をしているのは、ほとんどが 60 歳後半から 80 歳前半の役員が中心。子育て世代の方と意見交換をする場はなかなかない状況。どんな活動が必要なのか、何が必要なのかなかなか明確にできない状況もあると思われる。今後活動を続けていくにも、次の世代に文化や風土を継承する人材が少ないという状況で、地域の活動や子どもたちに対する勉学以外の体験学習がなかなか出来にくい。家庭教育支援のために、各団体、特に町内会は、子育て世代の方は働き盛りで、地域の活動になかなか参加できない。無関心になりやすい。結婚した女性も就職率がとても高くなり、自分の子どもの教育で手一杯。地域に関心はあるけれどその余裕がないという状況。30 年前であれば、60 歳で定年になり退職してから地域の活動に参加する時代もあったが、今、60 歳定年後に再雇用で 65 歳、70 歳まで働く方も多く、少なくはないと思っている。70 歳まで何らかの形で地域の活動に参加されない方が、あらためて地域やボランティアの活動に参加するのは、とてもハードルが高い。年齢関係なく 1 年目は 1 年目のポジション。どうしても若い人と同じ活動をするようになる。ボランティア活動をする人が少なくなっている状況。団体ごとのその目的に沿って、地域の活動を推進しているが、地域住民、年齢等に関係なく、共通的に関わるのがボランティア活動。高齢化と人材不足が課題で、活動に支障が出ている状況。今後、地域住民の方に地域の課題を理解してもらい、参加・協力してもらえる方法を考えていくことが必要ではないかと思っている。もっと若い方にボランティア活動に参加していただくように考えていかないと、活動が尻すぼみになってうまくいかなくなる。

成功例、具体例を一つ紹介する。今年度、コロナ禍以降 5 年ぶりに町内会の夏祭りを行った。5 年前何をやったか分からなくなっていて、あらためて検討する中で色々な意見が出た。例えば、夜の模擬店でもう少し人を呼ぼうとか、19 時までだったものを 20 時までにしよとか、焼きそばでも食べながら、大人が 1 杯飲めるような席を用意して夕涼みしてもらおうとかいう意見を取り入れた。くじ引きもした。いつもは模擬店が終わる頃には皆さん引き上げるが、くじ引きというと子どもが大好きで、予算は 3～4 万円だが、大したものを用意していなくても、最後にくじ引きがあると皆さん残って。子どもがくると大

人も来る仕組みなのかと思った。中には中学生・高校生も模擬店の販売に参加してもらった。参加してもらうには、従前のやり方に固執することなく、誰もが楽しめるようにあまりハードルを高くせず、来て楽しんでくださいという協力の仕方、来て楽しみながらボランティアに協力するというのが、本当なのかもと考えている。お祭りや行事活動だけではないが、地域活動に参加を促し、人と話し、聴くということで、社会性を学び、ものの考え方を広くすると考えられる。

議 長 ありがとうございます。地域の町内会の夏祭りの事例を紹介して頂いた。では、家庭教育支援の事例紹介をしていて、委員も、すでに発表していただいた委員もジュニアリーダーズの活動についても触れていただいた。では委員、お願いします。

事例⑨

委 員 どこまでが家庭教育支援の対象になるのか難しいと思っている。横須賀市ジュニアリーダーズの会長として活動しているが、最初は小学生を対象としており、地域の子どもたちと一緒に遊びながら、子どもたちの体験につなげている。ジュニアリーダーになるには、小学6年生から中学1年生の間に1年間講習を受け、ジュニアリーダーズという団体に入り、22歳まで活動する。ジュニアリーダーになってからも色々な刺激を受けながら、みんな頑張っている。対象とする子どもたちもジュニアリーダーの仲間たちもどちらも家庭支援につながっていると感じている。

もうひとつ、私は幼稚園で仕事をしている。幼稚園の事を知ってもらうのも一つだが、保護者の方がお子さんと来るので、その時の様子を見ながら、最近困っていることはないか家庭の話等もしながら、相談にものっていることも家庭教育支援につながっているのかと思う。

また毎年、三笠公園で横須賀のカレーフェスティバルが行われているが、その会場近くの横須賀学院で、市内の多くの幼稚園等が集まり、子どもたちに絵本を配ったり、お話しをしたりするイベントをしている。子どもたちや保護者を対象としたイベントに参加している。

高校生の時に、横須賀の姉妹都市のフランスに派遣してもらった。高校生を対象に毎年横須賀が費用を負担して行っているもので、行きたい人が応募して、保険の負担くらいで行けるので、こういうものも家庭支援だと思う。OBとして、海外から横須賀に留学生が来た時に、横須賀市内をはじめ鎌倉やみなとみらいや三浦を案内したりするが、子どもたちを対象としたハートフルイベントで、英語と日本語が飛び交う中で子どもたちと一緒にビンゴをするなど活動している。

今、新しい事に挑戦しようとしている。衣笠商店街にキッズパーク*というものがある。商店街の方が鍵の開け閉めをしていて、管理人がいないという状況。土曜日だけでもジュニアリーダーと一緒に行って、子どもたちと遊べるように出来ないか、市と商店街の方と話しながらすすめているところだ。

(*『まちなかキッズパーク』 アーケード商店街の中にあり、小学校3年生までの子ども

もたちが木製の遊具で自由に遊べる施設。未就学の子どもは保護者が見守る。)

議長 ジュニアリーダーの活動、色々なイベント、商店街のキッズパークの恒常的、常設的な仕組み、貴重な事例紹介をありがとうございました。委員いかがか。

委員 市民協働の立場から社会教育委員になりだいが経つが、出席率がよろしくなくすみません。今日は宿題をやってきていないのだが思ったことを。

家庭教育・社会教育・前回の会議資料を見せていただき、全体の様子を見ながら、バランスを考えつつ、どこにどんなウェイトをかけていくべきか、丁寧に拾い上げつつ、一つひとつの取り組みを上手に誘導したり、つなげたりしていく事が出来れば効果的だと思う。とても楽しそうな事例発表もあれば、重たい深刻な社会課題を抱えている取り組みがあったりして、総じて社会教育の分野だが、レベル差が大きいと感じる。でもレベル差があるのが、まさに社会そのもので、社会というものを教えていくこととしては、それぞれの取り組みがそれぞれの意味を持っていると感じた。知らないことを知る楽しみもあるが、社会の問題が根強くあるということの必要性を知る責任のような、受け取る側も幅広い許容性が必要である。子どもを育ててきた経験上、おそらく家庭教育とは、親兄弟から学ぶ、人としての基本のようなことで、学校教育というのは、集団になるが、それでも全員に学校として定式の基礎教育を均質に与える場。対して社会教育は、リアルな生活体験や社会体験を学べる非常に大きな機会になる。つまり、家でも学校でも学べないような深さと楽しさ。

家と学校でベースになる基礎教育をして、それに加えて応用・実用のリアルに教えてもらえる事や体験できることが社会教育。そうすると、実際に将来役に立つのは社会教育な気がする。

こう考えると最初に家庭教育で基礎が出来ているであろうと思う中で、親が悩んでいることや難しくなっていることがあるとすれば、家庭教育で欠けている部分を社会が補っていく形もあるのではないか。家庭のSOSを聞いて、これが欠けているのではないかという議論をしながら、補っていく、あてがっていく教育が必要ではないか、皆で考えながらプロデュースしていく。そこが家庭教育を補っていく社会教育なのかと皆さんのお話を聞いて思った。皆さんの経験を活かしながら、こうした行政の場でこそ、出来るような気がするし、皆さんの経験をどうすれば家庭教育を補えるかという発想で結び付けていくことで、どれも生きていくというような感じがした。

議長 つなげていただき、ありがとうございます。今日話していただいたレベル差ということでしたが、分野もそうだがレベルの部分も大きくて、家庭教育・社会教育だと必要課題といわれること。色々と実践していただいていることを繋げて、社会教育委員会会議としてどのようにまとめていくかが課題になる。委員からもいかがか。

委員 色々なところ、川崎等で同じような事例か出ている。評論家のようなのはお許しいただ

きたいが、皆さんのやっつけらっしゃることは素晴らしい活動。ポイントをかいつまんでいくと、高齢化の問題だとか、子どもの変化だとか。それを社会の場で行う教育として取り出してみたらどうなのかを考えてみたところ、組織や地域や学校。その前提として各世代、ジェネレーションを大事にする。生涯学習、生涯教育についてポール・ラングランは、生涯の各時期に対応したチャンスまでは伸ばし、世代ごとにチャンスがあれば、それぞれのより良い生き方のため、learning to be、存在のための学習を。より良い生き方をするために我々が、行政が、機関が、あるいは大人が支援する。そこは最大限に手を取り合って支援していく。次の段階で出てくる団体組織に聞いてみると、ノウハウや実績を持っているが、一緒になっていないという感じがする。これは致し方ない。我々のテーマ「家庭教育支援」でいうとそれぞれのところで成果を発揮しなければならない。そのこのところをうまくインテグレーションできない。社会教育施設同士でも上手くいかない。

最近、博物館が変わってきていると感じる。親子、あるいは文化財だけでなくAIであるとか時代の先端をいくものもと入れ、ミュージアムとして民間企業体なども参画してきて、子どもはもちろん大人も遊べる。逆に言うと野外活動が出てきたり。企業や行政政策で事業としてされている。そこを上手く手を組んでいくように、まさにインテグレーション。そこがうまくいかないと、行政効果が出てこない。行政の効果としては、そういうところにお金を投入するのだろうがうまくいかない。社会教育施設だけでは厳しい。今出ている子どもたちが、それぞれの年齢の発達時期に合うようなチャンスとそれに興味を持っていく事が大事。3歳、4歳、5歳、6歳とその年齢の時の体験がないと、その次の年齢になった時に非常にハンディになるという話も出ている。社会教育と言うか生涯学習というか、社会教育法で6歳が義務教育の年齢。6歳以前は保育園や幼稚園があるが。親が保護者というのが多分にある。各家庭に入れない。ところが実際には、親を支援すれば当然子どもも入ってくる。そこを取りまとめていかないと社会教育の新しさが出てこないのではないと思う。大事なのは学校。地域学習や総合学習などでの学校の関わりがとても大事で、それによって変わってくるが、課題や問題は多い。なかなかリンクしていかないと支援していければと思う。ライフコースという言葉がある。それぞれの人間の一生には、ある程度一生のコースがあるのではないか。そこにライフサイクル、各年齢に合わせたサービスをしていかなければならない。家庭教育支援とはどこまでの年齢が範囲なのか、成人の手前までと思うが。とても幅が広いので、あまり広げ過ぎるとテーマがぼやけてしまうので。「横須賀では」というところで、場所を決めながら社会教育の施設がある現状のところで。そういう所が皆さんのお話の中で繋がっているという事と思う。

議 長 大きな視点からのご意見ありがとうございます。適切な時期に出来るところはフォローしていくという視点は大切。それこそ社会と行政と施設など、横須賀という舞台で考えていくという方向性を次回からの課題としていきたい。他に何かあるか。

今日は事例紹介と見解をお話ししていただいた。今回はこれで終了となる。テーマの絞り込みは難しい分野だが、具体的な事例がたくさんでいるのでそれを結び付けながら議

論を進めていければ。次回以降方向性の絞り込みに入っていくので準備をお願いします。

4 その他連絡事項

事務局から事務連絡と委員からお知らせがある旨を連絡。

委員 里親の活動の紹介をしている会報「つくしんぼだより」が出来たので持参した。後ほど配布する。

議長 「つくしんぼだより」。横須賀市里親会の会報のお知らせでした。

最後に、議長が閉会を宣言し、会議は終了した。

(閉会)

以上のとおり相違ありません。

議事録署名年月日 令和 年 月 日

議事録署名人